

令和3年度 佐久市総合計画審議会第2部会（第1回） 会議録

日時：令和3年7月21日（水）

午後1時30分～

場所：佐久市役所6階602会議室

【出席者】相馬部会長、木内副部会長、堤委員、田村委員、臼田委員、丸山委員、笠井委員

【事務局】若林課長、木下企画調整係長、井出主任、金澤主任、大内主事

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（高橋委員、大島委員、土屋委員）

2 議事

（1）第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について
質疑、意見

事務局	「まち・ひと・しごと創生総合戦略 ver2、評価報告書」に基づき、 「基本目標2」について説明
部会長	事務局から説明がありましたが、ご質問等ありますか。
委員	移住者の属性、年齢層、家族構成、仕事の内容が分析できていれば、更により施策が生まれるのではないかと考えています。 「スム」というのは、「シル」「クル」とはステージがかなり違うので、リモートワークで移住する場合もあれば、仕事を辞めて佐久市で仕事を探す、創るなどいろいろと動機は分かれると思います。 佐久市として移住者の生活基盤を具体的に支えていく策はありますか。
事務局	東京からの移住者はもとより、南佐久からの移住者や一度軽井沢や御代田を経由する移住者が多い傾向にあります。年齢層は定年後のシニア層が多い傾向にあります。 もちろんシニア層も大歓迎ですが、佐久市としては若い世代をタ

委員	<p>ーゲット層として捉え、しっかりアプローチしていきたい。また、いろいろな働き方、働く場所が多様であることを磨き上げていく方法しかないと考えています。</p> <p>御代田にできたレストランのシェフから話を聞く機会があり、ミシュランの1つ星を取りたいと言っていました。そのためには有機野菜を使ったり、地産地消を進めるような料理を作らないと星は取れないそうです。1泊15万円かかるが、その金額を払ってでも泊まりたいという人が地元の人ではなく、外部からやって来ます。</p> <p>そこで、工場誘致よりは知的産業やシステム会社などを佐久市に呼べば、地元の商店街でたくさん買い物をする、高額な買い物をするのが抵抗のない人が佐久市に来れば、高い買い物をしてくれるのではないかと思います。地元住民とは感覚が違いますが、市が言っている事と同じではないでしょうか。</p>
事務局	<p>まさにやりたいことなのですが、知的産業が移転してくる手立てを欠いている状況にあります。</p>
委員	<p>都心から来る人達が埼玉や八王子方面に出ていくのではなく、佐久まで来るようなニーズがあるのではないのでしょうか。来ればいい所だというのが伝わると思います。</p>
委員	<p>定年退職した方が移住して、それから子どもや孫を呼ぶというところまでは到達していない気がします。リタイアしてから来た移住者が家族を呼び寄せられないハードルは何なのかを考えたほうがよいです。個人的には、若いときには外で活躍してお金を貯めて戻って来て使ってくれればよいと思っていますし、いろいろな方法を模索していくことが必要なのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>事務局が「軽井沢と佐久は違う」と言っていますが、何が違うのかは記載されていません。軽井沢は湿度があって、佐久は乾燥しているなどの認知はされていなく、地域性もそれぞれ違うところがあります。佐久の良さはどんなところなのかを記載するべきだと思います。</p> <p>工場団地もありますが、佐久の産業といえば、戦前は生糸しかなかった。今ある工場はほとんど戦後にできたが、本社機能がない状</p>

	<p>況です。本社を持ってこられるような工場が佐久市にできるかどうかは今後の地方創生にかかってくると思います。信州短大も含めた佐久大学はすばらしく地域に貢献していると思いますが、もう一つ理系の大学が欲しいです。理系の大学があれば、少し変わってくるのではないかと思います。</p>
委員	<p>佐久市は可能性がすごくあると思います。昔と比べると若い方の意見が入ってきて、非常によいのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>私は仕事の関係上、移住者を相当重宝しています。 編集者、ライター、カメラマンといろいろな企画をつくったり、キャンプのイベントをしたりしています。今までの佐久だと人材不足でしたが、東京から佐久の良さに惹かれて来た人達のおかげで、仕事の幅が増えました。やりたくても人材不足でできなかったことが、できるようになっています。</p>
事務局	<p>戦略的にはライフステージが変わる時期が狙い目で、子どもが小学校に入学するときなど、家族の転機に移住を検討すると思っています。シティプロモーションでもそういったことを狙った発信をしています。</p>
事務局	<p>《まち・ひと・しごと創生総合戦略 ver2、評価報告書》に基づき、 《基本目標2》について説明</p>
部会長	<p>ご質問、ご意見があったらお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>P22 の事業者数が平成 26 年は 2,848、平成 27 年は 2,730、令和元年が 5,210 と記載されていますが、どのくらいの規模が事業所としてカウントされているのか、平成 28 年から令和元年までで 500 近く増えているのはなぜでしょうか。</p>
事務局	<p>経済センサスでカウントしている事業者数と認識していますが、どのくらいの規模かは承知していません。</p>
委員	<p>佐久市は土地がたくさんあるので工場が作られています。従業員の取り合いが懸念されます。外から来た企業は高い賃金を出す、</p>

事務局	<p>全国でもそういった例があるようですが、前からいる企業がすごく苦しくなると思います。</p> <p>それから佐久市役所のテレワークはどんな状況なのでしょう。</p> <p>窓口の職場はテレワークが難しい状況です。企画や総務部門は、本来なら可能だと思いますが、現実的には情報管理の課題への対応に苦慮し、なかなか進んでいない状況です。自治体 DX も叫ばれているので、情報担当課を中心にテレワーク可能な状況にしようとしています。</p>
委員	<p>ジャパンブランドの推進事業について、輸出関連件数が伸び悩んでおり努力を要すると記載がありますが、実際にどういうことをやっていて、伸び悩んでいる原因はなぜかがこの記載では不明です。</p> <p>一方、支援技術は件数が増えているが根拠は何なのか、何を目標してどういうことをやっていくのかが見えないのですが。</p>
事務局	<p>大きな枠組みとして、健康長寿というのは佐久市特有のブランドであり、これを様々な産業に活かしていきたいというのがジャパンブランド事業の本体です。</p> <p>海外から佐久市の先進的な保健医療を学びたいという方を受け入れて、学んだことを自国に持って帰ってもらうこと、さらには、佐久市のやり方を持ち帰ることは、医療器具も含めた周辺産業を持ち帰ることもつながり、地域産業全体を活性化しようという狙いがありましたが、コロナの影響でここ2年間は、人の往来が不能となってしまったのが実態です。</p>
委員	<p>佐久は厚生連の若月先生の時代から農村医療の伝統があり、健康意識が高いです。</p>
委員	<p>介護の人材というのは、大学や専門学校で佐久市独自でやっていないのでしょうか。</p>
事務局	<p>佐久独自ではやっていません。例えば、保健医療の分野は、佐久病院、浅間病院、佐久大学、行政が連携して、行政から現場までを学んだり、介護分野では、日本の介護現場の人材不足を補うために海外の実習生を受け入れるというのを民間の事業者レベルでやっ</p>

	<p>ています。</p> <p>実習生には日本で5～10年働いてもらってから自国で活かしてもらい、その戻ってからの受け皿となる介護事業所を、本市の事業者が海外展開する。このように、介護事業者は海外にビジネスチャンスが広がる可能性を秘めています。</p>
委員	<p>せっかく補助金を出して研修してもらったのなら、自国に戻るのではなく佐久地域で就職してもらいたいと思います。</p>
委員	<p>移民の問題などありますが、今後は外国人労働者が確実に増えていきます。介護分野は日本人の引き抜き合戦がすごく、祝い金をつけてやっています。やはり介護現場の待遇を本気で改善していかないとなかなか人は集まらないと思います。行政の力でやってもらうしかなく、低賃金で外国から連れて来るとするのは難しい状況です。</p> <p>これからは発展途上国から中国へ行ってしまおう。また、高齢者が集まってまちづくりについて話し合うと陳情合戦になる。国会議員も高齢者にいい顔をするために、高齢者寄りの政策になるように思っています。</p>
委員	<p>佐久市の創業支援に関連してですが、若い女性の方がこういう会議に出るとよいと思いますが、若い方はどうしても家庭や子どもの都合で仕事を休んだりしなければなりません。会社の中でも女性の役職者を増やしていきたいとなったときに、家庭や子どもを優先したいという理由で、昇格するのを辞退する人がいます。子育て世代の創業支援などをしっかり取り組んでももらいたいと思います。</p>
事務局	<p>今の段階では、女性は会社で少し働きづらく社会が追い付いていないという側面があり、会社ではなく個人でやるということに重点を置いて支援を進めています。様々な働き方を提案していきたいと考えています。</p>
委員	<p>雑誌を見ると、女性で活躍している人がたくさんいらっしゃいます。今回は団体からの推薦で委員として来ていますが、個人で活躍している方に来てもらってもいいのではないかと思います。</p>

委員	ぜひ女性の意見を聞いていただきたいです。
委員	私は、最初 PTA の役員の中から女性が活躍する会を作りました。また、子どもの育成に関することを手伝っていますし、スポーツクラブと連携して、地区の活性化にも貢献しています。そういう傾向に段々となってきましたし、女性が区長をやってもいいのではないかと思います。

(2) その他

質疑、意見

部会長	その他について、事務局から何かありますか。
事務局	次回の開催は、7月26日(月)13時30分からの予定です。

3 閉会